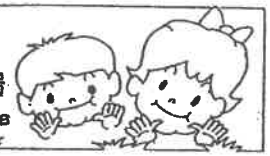
SHIRAYURI YOCHIEN

げんき

10号 6月17日



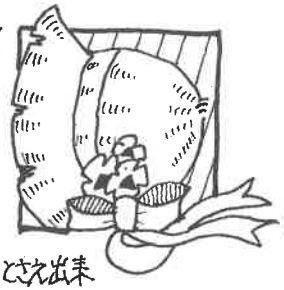
6月も後半に入りました。すっかり新しい生活に慣れて来たこどもたち、活動が活発さを増してきております。

つぼみのおともだちは今日からバス通園のはじまり、これまでママの顔を見つけると満面の笑顔で大きなリュックを揺らしながら一目散の園庭でのあの光景がなつかしいです♡

新しい教室、おともだち、教師と環境に慣れはじめて1学期の後半を迎えます。

■自発的にはさまざまな課題活動があります。そのひとつひとつをやりとげる事によってこどもたちは心と身体(からだ)をたくましく豊かに育てております。

「やってみてごらん 出来るようになるよ!!」とスタッフの声かけに興味を持ったおともだちが第一歩を踏み出します。



なわとび、どの子も興味のある活動です。しかし、難しい活動です。

両足を揃えてジャンプできるが、両手に縄を持って、それを跳ぶなんて出来ないし縄を持ってグルっと大きく回すことさえ出来ません。

「まわして ポン!」のかけ声にしんけんな表情で取り組むこどもたち。最初の内、跳べる子は居ないけど、どの子もしんけんな表情で、出来るようになりたいの想いが観てとれます。

腕を大きく回して1回、2回、3回と続けて跳べるようになったらシメタものです。

「大きく回して!」のかけ声にしんけんです。

理論・理屈は通じません。「上手なおともだちのマネをしなさい!」「風に負けないで大きく回して!!」と。

腕ではなく、手首で縄が回りはじめたら本物です。

「やる気」を引き出してあげよう。

■**さか立ち**に役立つ園庭の芝生があります。

壁なしさか立ちで2歩・3歩とあるく時に転んでも平気です。

ホールや廊下での練習よりも、自信を付けたお兄さんお姉さんたちが沢山おります。

現在も、日毎に増えてきましたよ。

(心の育ちシリーズ)

心の発達の段階

はじめてママの安心子育てより

子どもの心の成長は、男女の違い、生まれもった気質、親の関わり方によって違います。どんな段階を経て成長するのか、年令別に観てみましょう。

0〜2歳 想像力の誕生	心の発達は、脳の発達に支えられています。生後10ヶ月頃になると脳の中がネットワーク化されて想像力が誕生します。すると、見ている世界とは別の世界をイメージして頭に描くことができます。親から受け継いだ「気質」は、遊びや人、モノへの関心の違いを生み出します。人間関係に敏感な「物語型気質」の子は「ごっこ遊び」が好きで、物語絵本を好みます。モノの変化や動きに敏感な「図鑑型気質」の子はプラレールやブロック遊びが好きで図鑑を好みます。
3〜6歳 感情のコントロール	この頃になると、外界に働きかけて知識を蓄えます。又、生活や遊びを通して生きると言う事の大まかな理解を学んでいきます。幼稚園や保育園などで家族以外の大人やこどもたちとの出会い、会話能力や他者への共感性を発達させます。5歳頃から脳の言語処理をつかさどる部分が脳の他の部分とネットワークされ、そのことを計画したり、原因と結果の関係を理解したり、感情や行動をコントロールしたり…といった思考が出来るようになります。6歳頃になると時間の流れを理解し、過去・現在・未来について意識するようになります。
7〜9歳	記号や数式など使った教科学習が始まると、これまで遊びや生活をとおして獲得してきた生きることに対する大まかな理解を、科学的理解にまで深めていきます。低学年くらいの子は手足やモノを使って問題を解決するが、9歳頃からは、記号や数式などを使って問題を解決できるようになります。しかし、それまでに五感を使って十分に外界に働きかけ、友だちとよく遊んだ経験が少ない子にとっては、記号や数式など抽象的なシンボル操作で問題を解決が難しく、授業について行けない子を出てきます。「9歳の壁」と言われる問題です。
10〜12歳 自分探しの旅へ…	10歳頃から、脳の前頭連合野(複雑な行動をつかさどる部分)が心と身体をコントロールするようになり、意志・判断力・モラル・情緒が一段と発達する。問題を理論的に分析したり、言葉や図、記号などを使ってまとめることが出来、ものごとを抽象的に考えられる段階へと進みます。人生を豊かに生きる為に思春期前期にあたるこの時期に出会う大人、本や映画などのメディアの役割は大きいです。子どもは周りの友や教師、メディアの影響を受け、自分はどういう人間か、将来どのように生きたいかなど、自分探しの旅へと踏み出します。生涯をかけてその答を探し続けます。